

高齢者が望む快適な住環境の構築に関する研究

高知工科大学 学生会員 ○日浦隆太
高知工科大学 フェロー会員 草柳俊二

1. 研究の背景と目的

現在、我が国では急速な高齢化社会が進行している。身体的衰えや病気等で介護を必要となった高齢者の多くは、介護施設等に入り人生を終えることになる。我が国では、高齢者が可能な限り自立生活を送り、快適に且つ有意義に過ごせる環境が構築されていない。特に高知県のような地方では中山間地域に居住する高齢者が多く、そのほとんどが過疎化の進行のなかで様々な不安を抱えながら自立生活を送っている状態にある。本研究では、高齢者の生活状況や意識を調査し、生きがいのある老後を過ごせるシステムの構築を目指した。

2. 日本の将来人口構造

図-1に我が国の将来人口の推移を示す。近年我が国では急速な高齢化が進んでいる。2006年9月現在の高齢者人口は2640万人、高齢化率は20.7%であり、5人に1人強を高齢者が占めている。高齢化率は20%を超え、超高齢化社会となっている。また、2050年には高齢者人口3586万人、高齢化率は35.7%となり今後高齢者人口は増加し続けると予測されている。

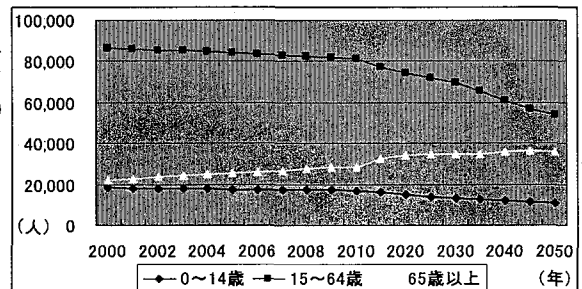


図-1 将来人口の推移

3. 高齢者の現状・意識調査

老後を快適に過ごせる住環境の創造に向けて、中山間地域の高齢者の意識・現状を調査し把握することを目的とし、高齢者の意見、生活実態のアンケートを実施した。方法は住居を訪問し直接インタビューを行う方式とした。

- ・調査目的：高齢者の住環境と意識調査の把握
- ・内容：主に中山間地域の高齢者の日常生活に対する意識・現状・ニーズ
- ・対象者：香美市・香南市在住の65歳以上の男女 配布枚数107枚（回収率100%）
- ・調査時期：2006年12月8～21日

アンケート結果から高齢者の意識・現状・ニーズを分析した。現状では全体の31%が一人暮らしとなっており最も多い。また、一人暮らしをしている人の年齢層を見ると圧倒的に70～80代の高齢者が多かった。70～80代の高齢者の一人暮らしは、緊急時の際助けてくれる人がいないため孤独死等を引き起こす可能性が考えられる。

図-2は「したいことの有無」、図-3は「具体的にしたいこと」に対するアンケート結果である。今後何かしたいことがありますか、の問に「はい」と答えた人は全体の71%、したいことの58%が趣味、30%が生きがいという結果になった。図-4は「自立生活を送りたいかの有無」を表している。「はい」と答えた人は、全体の87%という結果になった。したがって、高齢者は極力自分の力で生活をしていきたいと考えていることが把握できた。図-5は「将来への不安」を表している。66%が「身体・健康的な問題」、17%が「金銭的な問題」という結果になった。この結果から、主に体の衰えや病気、金銭面に不安を抱えていることが把握できた。

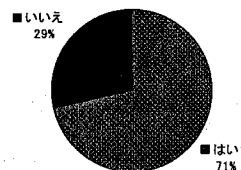


図-2 したいことの有無

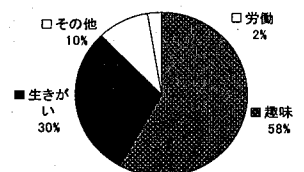


図-3 具体的にしたいこと

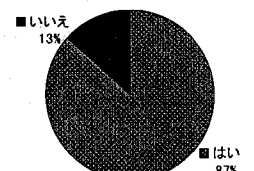


図-4 自立生活を送りたいかの有無

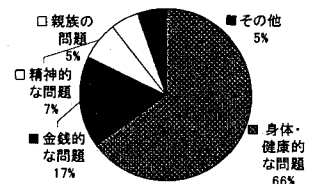


図-5 将来への不安

これからの生涯をどうしていきたいか、の問に対する回答は様々あったが、全体をまとめると「元気で健康に暮らす」、「趣味や交流を続けたい」、「周囲に迷惑をかけないよう自立した生活を送る」、「今まで通りの暮らし」、「長生きしたい」などの意見があった。

4. システムの構築

(1) コンセプト

アンケート結果から得られた、出来る限り自立生活を続ける、趣味や生きがい、楽しく若者と交流が出来る、等を考え高齢者が元気に、快適に生活を続けられるシステムを提供する必要がある。具体的方策として山間地域で生活している高齢者が望む時に街に出てきて滞在できる施設を用意することとした。施設は「生活できる個室」をコンセプトとする。プロジェクトマネジメントのプロセスによって、これらのコンセプトを組み込んだ複合型施設を建設する方法論を見出す。

(2) プロジェクト資金に関する分析

現在介護保険給付費は日本全体で、4,625 億円／月となっており、例えば高知県香美市で見ると 1.79 億円 もの多額の金額が支払われており、今後も高齢化の進行とともに増加していく傾向にあると考えねばならない。図-6 は同市での介護保険給付を受けている 65 歳以上の人口の分布を示したものである。その総数は 1636 人であり、65 歳から 95 歳の給付人口は約 96% となっている。もし仮に、65 歳から 95 歳の介護保険を必要とする人達が健康を維持し、介護保険受給を 5 年遅らせることができたとした場合、給付人口のグラフは 5 年分平行移動することとなる（赤色線）。しかしながら、日本の平均寿命は世界最長であり、これ以上延長する可能性は低い。よって、95 歳以上の介護保険受給者数は変わらないものとし、予測したグラフが黄色線である。これを基に介護保険給付費の変化を算出すると、減少する分が約 1000 万円／月、逆に増加する分が約 500 万円／月、両方を差し引くとい約 500 万円／月の削減になり、年間に換算すると、約 6000 万円の削減になる。

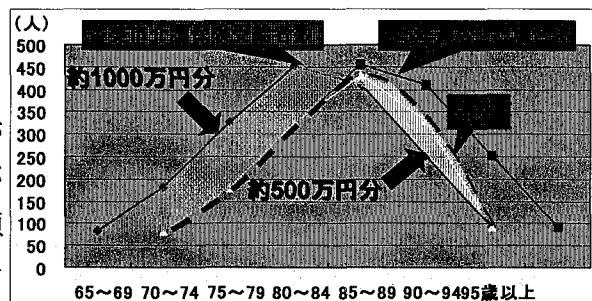


図-6 香美市介護保険給受給者数

つまり、高齢者が生きがいを感じ健康で過ごすことが出来れば、介護予防に繋がり、介護保険料の削減が可能になることになる。この介護保険給付費の削減をプロジェクト資金として充当することを考えた。

(3) 建設施設の概要

① 建設規模

・建築面積：627.36 m² ・延べ床面積：1858.08 m²

構造規模：鉄筋コンクリート造 地上3階

② 宿泊室

・高齢者が自由に宿泊できるように部屋を配置した。

また、各部屋に緊急時のために通信用設備を用意。

③ 共有施設

交流や趣味が行なえるようにカフェ・トレーニングジム・多目的ホール・遊ぶスペースを設置した。

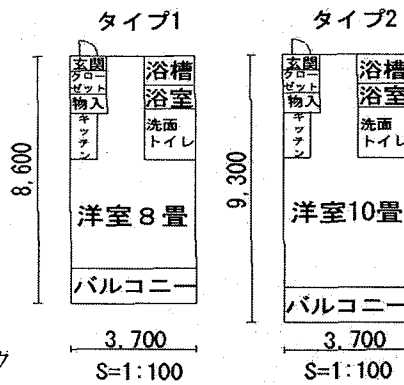


図-7 個室タイプ別平面図

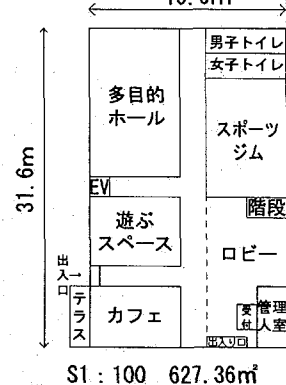


図-8 施設平面図

5. 結論

本研究では、高齢者が老後を快適に過ごせる住環境の構築というテーマに沿って進めてきた。実際、この施設が建設されることで、高齢者にとって心の寄り所の一つとなり生きがいや趣味を楽しめる環境になる。また、介護保険給付費の削減も可能になると考える。今後の課題として、中山間地域の方が自宅と施設を自由に行き来できるような交通システムの構築を考える。筆者は普段の日常生活では、高齢者と触れ合う機会があまりなかった。高齢者の方々はアンケートを皆さん快く受け入れてくれ、積極的にお話をしてくれた。また、筆者が話をすることで喜んで頂けたように感じる。表面上ではわからない事が実際に話をすることで、高齢者が抱えている生活に対する問題や不安を理解することができたより深く理解できた。この経験は自分自身にとって大変貴重なものになった。今後就職先でも、お客様と接する機会が多々あると思われる。そういった仕事の中で、相手の気持ちを正確に受け入れる事を常に心掛け、その気持ちに答えられる人間として成長していきたいと思う。